

老人ホームのより良いケアを目指して

～浴風会の挑戦～

社会福祉法人 浴風会
南陽園サービス部長 丸山 寿量
東京センター副センター長 佐藤 信人



南陽園
開設：昭和46年6月（平成3年4月改築）
定員（254名）：入所…242名、ショートステイ…12名



第二南陽園
開設：昭和62年2月
定員（156名）：入所…150名、ショートステイ…6名



第三南陽園
開設：平成14年4月
定員（222名）：入所…207名、ショートステイ…15名

現状

- ▶ 共通のアセスメントシートはあるが、記入マニュアルがなく、内容にも差異がある。
- ▶ 認知症フロアでは、別書式のアセスメントシートを使用している。



認知症の人のケアプランの実態に関する研究（H29、30年度）

目的

- ▶ 現状のケアプランが認知症の人の尊厳を保持し、自立した日常生活の実現を目指したものになっているか実態を検証。
- ▶ ケアプランの具体的で実行可能な方向性を提示することにより、認知症の人の自立した日常生活の実現の支援をするためにケアマネジメントの精度を高めていく。

方法

- ▶ ケアプラン第1表、第2表及び、作成の根拠となったアセスメントの収集・分析。
- ▶ ケアプラン第1表、第2表及び、作成の根拠となったアセスメントの優れた点・改善を要する点の抽出。
- ▶ ケアプラン及び、アセスメントに係る優れた点を活かし、改善を要する点については、日常業務体制の実態に則して実現可能な範囲の改善方法及び、今後に残された課題を提示。

見えてきたこと①

- ▶ ケアプラン第1表
 - * 「生活に対する意向」欄の記載方法の違い。
- ▶ ケアプラン第2表
 - * ニーズ・長期目標・短期目標の記載内容の重複・逆転。
 - * 「サービス内容」とアセスメントシートの「職員の関わり」欄との関係が不明瞭。

見えてきたこと②

▶ アセスメントシート

- *アセスメントのツールが施設やフロア毎に複数存在する。
- *アセスメントシートの「本人がしていること・したいこと」欄のストレングス部分の記載方法の相違。
- *アセスメント表の「楽しい・嬉しい・好き」というストレングスをニーズや長期目標に反映する方法が不明瞭。
- *外部のインフォーマルサポートを記載する方法の不明瞭。

取組み

▶ アセスメントシートの見直し

- *認知症の人へのケアに特化し、実態を踏まえて使用可能な、アセスメント様式を作成。
- ▶ アセスメントシートを作成するための、マニュアルの整備。
- ▶ ケアプラン作成マニュアルの整備。

改善点①

▶ 共通認識として

- *アセスメントにより、ケアプランに反映させるための素材を発見する。
- *アセスメント、ケアプランが支援に携わる関係者に共有され、統一した方針に基づき支援を行う。
- *ご利用者が、その能力に応じ、自立した日常生活を実現することができることを目指す。

改善点②

▶ 基本データ

- *「苦手なこと」⇒「避けてほしいこと」に変更
- *入院歴の追加

▶ アセスメント

- *「ご本人の状況」「ご本人の意向」「ご家族の意向」「職員判断」を統合して、「ニーズ」と「詳細なサービス内容」を作成する

改善点③

▶ アセスメントシート記入マニュアルを作成。



ケアマネジメント研修

新アセスメントシートについて

平成30年度必修研修

研修の感想より

- ▶ 項目ごとに「ご本人の意向」「ご家族の意向」が追加されたことが、とても良かったです。今後のケアの方向性を明確にできて、まようことがなくなりました。
- ▶ 施設ケアプランは、このシートに基づいて作成できると思うので、どのくらいこのシートでしっかりとアセスメントできるかが大切だと感じた。
- ▶ より具体的に記入できることによって、意向やニーズが分かりやすくなったと感じました。
- ▶ アセスメントシートに関しては、1項目ごとに状況・意向などがまとまっていて、とても分かりやすいと思います。
- ▶ 記入する場所が多くなるが、より「その人」が分かりやすくなると思います。ご本人やご家族の意向がそれぞれできたことで、ニーズが作りやすくなると思います。
- ▶ アセスメントのご本人の状況、意向、ご家族の意向、職員判断が横に並んでいて、施設ケアプランも作成しやすいと感じた。

課題

- ▶ アセスメントシートの基本的な考え方をケアプランにどのように活かしていけるのか。
- ▶ アセスメントシートの検討に重点が置かれ、ケアプラン作成マニュアルの整備に着手できなかった。
⇒使用実績を踏まえ、秋以降、ケアプラン作成マニュアルを作成する。